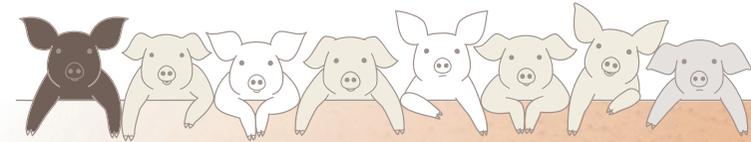


東京産の皮革ピッグスキン
TOKYO LEATHER
PIG SKIN 2022

As pigskin has historically been eaten as part of pork in most of the world, Tokyo has been a global leader in pigskin-related technological development, where leather manufacturers have developed novel pigskin items such as softer leather, suede, non-chrome tanned leather, and various finishing methods. Tokyo prides itself on producing and supplying the world-class quality pigskin still today.



TOKYO LEATHER PIGSKIN 2022
東京都／東京製革業産地振興協議会

東京レザーファッションフェア(ビギーズ・スペシャル)に係る
都内皮革製業の広報・宣伝業務

JFWジャパン・クリエーション2022

主催：一般社団法人日本ファッション・ウィーク推進機構

JFWテキスタイル事業運営委員会

後援：経済産業省、独立行政法人中小企業基盤整備機構、他

産業労働局商工部 経営支援課
2021年12月発行
登録番号(3)34

 古紙配合70%の再生紙を使用しています。
環境に配慮したインキを使用しています。

ピッグスキンって何？

革が創られる街 東京・すみだ

インタビュー
豚さんから豚革へのストーリー

革の製造風景／職人の仕事現場

革のお手入れってどうするの？

革工場の紹介

まちあるき LEATHER MAP

東京産の皮革
ピッグスキン

TOKYO LEATHER PIG SKIN 2022

東京の特産品

「ピッグスキン(豚革)」って知ってますか？

牛革、豚革、鹿革、爬虫類革など

靴やバッグにはいろいろな革が

使われています。

本誌では

東京都墨田区を中心に作られている

「ピッグスキン(豚革)」を

皆さまにご紹介していきます。



ピッグスキン って何？

豚肉を加工したあとに残った皮を

有効活用して作られたのが

ピッグスキン(豚革)です。

骨や皮は他にもコラーゲンやゼラチン、

油脂などの材料にもなります。

ピッグスキンは3つで1組の毛穴が特徴で、

通気性や耐摩耗性に優れているので

靴の内側などによく使われます。

多様な加工でカラフルな革に仕上げたり、

スエードにしたものも人気です。

CONTENTS

ピッグスキンよくある質問 03

革が創られる街 04

インタビュー 06

皮から革へ 08

革の製造風景 10

ピッグスキンの種類 12

革のママ知識 14

革のお手入れ 16

企業紹介 18

東京都立皮革技術センター 29

まちあるき LEATHER MAP 30

企業紹介

18 石居みさお皮革(販売代理店:中村貿易)

19 株式会社 エセカ

20 有限会社 兼子皮革染色工場

21 墨田革漉工業 株式会社

22 株式会社 墨田キール

23 有限会社 T.M.Y'S

24 長坂染革 株式会社

25 株式会社 ニシノレザー

26 福島化学工業 株式会社

27 山口産業 株式会社

28 有限会社 日下部工業所

28 取り扱い一覧



ピッグスキン よくある質問

なぜ革と皮があるの？

「皮」は動物から剥いだ生の状態のものを指します。そしてその「皮」をいろいろな処理や薬品によって化学変化させ、腐りにくくしたものを「革」と呼びます。LEATHER(革)とSKIN(皮)の性質の違いもありますが、昔から使われているので本誌ではそのままピッグスキンと呼びます。

主に何に使われているの？

通気性がよく丈夫で柔らかいことから靴の裏革、衣料、カバンなど様々な製品に使われてきました。軽さや薄さ、様々な加工のバリエーションもあり、ファッション素材としても用いられています。近年では、洗える革や撥水加工が施された革など、水濡れにも強い革が好評、毎年新しい技術で進化しています。

牛革のほうが高級なんですか？

牛と豚では飼育期間やそれにかかるコストも違います。豚は6ヶ月ほどの短期育成で皮が小さく柔らかめ、牛は30ヶ月程度の長期育成で皮が固く丈夫になります。大きさと厚さが違うため使い方の用途も変わります。昔からの商習慣もあり、牛革の方が高級と思われるのですが、豚革には牛革に負けない価値があり、特性に応じて使い分けられています。海外では希少な高級素材として扱われています。

革を使うのは動物が かわいそうではないの？

私たちが肉を食べ続けるかぎり、皮はかならず残ります。皮革産業はこの皮を無駄なく利用しています。かわいそうと思う優しい気持ちで、革製品を大切に扱い、長くご愛用していただければと考えます。

革の原料はどこで 手に入るの？

関東近隣から豚が食肉市場(屠場)に集まり、お肉に加工されます。皮革の製造業者(タンナー)は、この市場から原料となる原皮を仕入れます。国内や海外に出荷される際は専門業者の手によって保管するために塩漬けにされて運ばれます。

革はいつから 作られているの？

現在、残っている最も古い革製品は、ヨーロッパのアルプスで発見されたアイスマンと呼ばれるミイラが身につけていた靴、衣服や帽子など。今から5000年以上も前のものです。革作りは、人類にとって最も古い化学工業とも言われています。

革が作られるまで どのくらい時間がかかるの？

革づくりには何十もの工程があるため、革の種類や状況によって変わりますがおおまかに言うとクロム鞣し(なめし)で10日、タンニン鞣しで1ヶ月ほどかかります。クロム鞣しでは洗濯機のようなドラムで攪拌しながら薬剤を浸透させて化学変化を起こします。

TOKYO LEATHER PIGSKIN 2022

企画:株式会社ソーシャルデザイン研究所
design.T.rooms 徳永美子

協力:一般社団法人日本皮革産業連合会 吉村圭司
産業・教育資料室きねがわ 岩田明夫
東京都立皮革技術センター

デザイン: Creative-SANO-Japan 大野鶴子
P8,9,30,31 イラスト: 進士 暁
P14,15,16,17 イラスト・デザイン: 革間麻衣子
取材:川崎智枝、鈴木清之。(B.A.G Number)

P6,7 インタビュー: 草野明日香
撮影: 馬杉真理子、増田義和
印刷: 株式会社サンコー
2021年12月発行

革が創られる街 東京・すみだ

東京産の皮革『ピッグスキン』その多くはスカイツリーのある街『墨田区』で生産されています

東京の特産品「ピッグスキン」

牛革、鹿革、爬虫類革など、日本は原料になる皮の大部分を外国から輸入していますが、ピッグスキンは豚肉の副産物として国内で唯一、自給できる皮革です。

東京都内で食肉処理から革の加工まで行われているので東京の特産品と言っています。さらに日本は世界的にも珍しい豚の原皮の輸出国でもあります。



東京・すみだで作られるピッグスキン

革づくりには大量の水が必要です。墨田区は荒川、隅田川、旧中川に囲まれて、水辺に恵まれた土地です。
また江戸時代から近代軽工業の発祥の地として、さまざまな産業が発達しました。その一つとして革づくりに適した場所として選ばれたのでした。
関西や他の産地では主に牛革が作られていますが、東京には豚革を作るタンナーが集まっています。
食用として関東では豚肉、関西では牛肉が多く食べられている、といわれ食文化と関係があるとも言われています。



皮革業界では東京都の特産品ピッグスキンをアピールするための活動をしています。

ピッグスキン・ファッションショー

繊維総合見本市JFW-JAPAN CREATION内で、ピッグスキンファッションショーを開催。
東京の若手を代表するデザイナーと東京都内の専修学校各種学校の生徒たちの作品が一同に集まります。多様な加工技術を持つピッグスキンだからこそ、作品のバリエーションに対応できるのです。



ソラマチでの販売イベント



スカイツリーがあるソラマチ内のすみだまち処では、ピッグスキンを使った商品を販売しています。国内や海外からのお客様にも「素材から東京で作られた商品」として好評です。(2022年度に移転予定)

ピッグスキンのブランド開発



すみだのピッグスキン工場は、素材だけではなく、製品を通じて革の魅力を知ってもらおうと独自の商品開発を進めています。そこからいくつものブランドが世に出ています。

ギフトショーへの出展

毎年、ピッグスキンを使ったブランドが東京ギフトショーに出展。
東京にも革の産地があると知り驚かれる方もいます。東京産のピッグスキンの魅力をお伝えし、全国の小売店に販路を広げています。



日本一の豚革加工産地として知られる東京・墨田区を拠点に、2021年3月から豚革の魅力を伝えようと精力的に活動する、ピガップの児嶋真人さん。

豚皮から製品化されるまでの過程にスポットを当て、ていねいに伝える姿勢は、区内の皮革事業者の心を動かし、豚革に挑む児嶋さんの活動を後押しする動きが生まれています。今回は、児嶋さんの豚革製品づくりを手伝った革小物の老舗メーカー「東屋」代表の木戸麻貴さんとピガップの児嶋さんが、豚革の製品づくりを対談で振り返りました。



ピグスキンを広めたいと 新ブランドを立ち上げた **元キックボクサー** 「豚さん」のストーリーを届け 豚革の価値を高めたい!

児嶋：もともと僕はバス会社の事務員を退職後、いろいろなバイトを経験していましたが、将来アパレルをやりたいかった。でも洋服ブランドは無数にあるので、あえて自分でやる意味を見いだせなかったんです。まず紳士用バッグをつくり始めた頃に墨田区のピグスキン工場と出会ったことがきっかけで豚革商品で展示会に出たのを機に、もっと豚革を広めたいと思うようになりました。

東屋さんとの出会いは、縫製してくれる会社をネット検索で探して、飛び込みで訪ねたのがきっかけでした。以前、牛革でバッグ製作をした際に縫製技術の大切さを痛感したのもあって、ていねいな縫製してくれる会社を探していたんです。

木戸：本当に突然来ましたよね（笑）。「豚革の魅力を伝えたい」という児嶋さんの強い思いを知って、当社の3代目が豚革製品をアメリカに輸出していたという歴史を思い出し、何かの縁だと思いました。革小物の世界は斜陽産業といわれる中で、児嶋さんのように熱量を持って取り組む姿勢を見て応援したい気持ちが高まって、すぐにサンプルづくりのお手伝いをしました。

児嶋：素材のよさだけでなく、お肉として食べられる「豚さん」がいかに無駄のない活用をされているのか、原材料から製品化されるまでの背景を伝えることで、魅力を届けたいと考えていたので、クラウドファンディングに挑戦することにしました。支援者へのリターンとして東屋さんに、ロングセラー商品のマルチケースを豚革でつくっていただくお願いをしました。いきなりご相談したにも関わらず優しく接してくださり、区内のさまざまな会社の方も紹介してくれてとてもありがたかったです。

木戸：6月に相談いただいて、あっという間でしたよね（笑）。児嶋さんはとにかくスピーディーで行動力があって、何より素直さが魅力です。みんなが協力しなくなる魅力を持っている方だなと思います。

児嶋：ピグスキン工場の社長から「児嶋さんのように頑張る若い人がいることは本当にありがたい」と言っていたのは励みになっています。自分の活動を通して、恩を返していけたらと思っています。安いから選ばれるのではなく、牛革と同等な価格に引き上げても豚革を選んでもらえるように価値を高めていきたいんです。

木戸：牛革より軽くて柔らかいという特性を活かして、エプロンやミトンの製作にも取り組んでいますよね。それに、児嶋さんはキックボクシングもされていて、引退試合でも豚革のパンツで試合に出られていましたね。

児嶋：格闘技の世界で豚革を取り入れたのはおそらく僕が初めてだと思います（笑）。観客の中には、豚革のパンツに興味を示して声をかけてくださった方もいて、スポーツをしていた僕だからこそできる取り組みをこれからも積極的にやっていきたいですね。

木戸：始めて半年足らずで製作できる場所が見つかったり、つながった方たちのご縁でさまざまなプロジェクトが始動したりと、一気に動きが生まれていますね。

児嶋：安いから使うのではなく、お金を払っていただける価値あるものをつくるアプローチは必要だと思っています。今後は僕がいちからつくるといふより、すでにあるよいものを掛け合わせて取り組みを進めていきたいと思っています。豚革の魅力を伝え、豚革の国内消費を増やし、さらには豚そのものの価値が高まることにつながるような活動をしていきたいです。



取材前日が引退試合でした元キックボクサープロ戦績25戦10勝14敗1分け Japan Kick Boxing Innovation スーパーフェザー級6位

ピグスキンの新しい製品をピガップが企画・プロモーションし、東屋が生産している



豚革の価値を広めたい

革小物の生産を手伝います

有限会社 東屋 社長 木戸 麻貴

毎日手にとるとも身近な存在である革小物。だからこそ、お使いいただく皆様に「使っていて楽しい!」と思っただけの製品づくりを心掛けております。一方で、日本の革小物づくりは、職人さんの高齢化や後継者不足に直面し、その技術の継承が大きな課題となっています。革小物を「使う楽しさ、つくる楽しさ」を日本の皆様、世界の皆様に伝えたい、その思いのこもった革小物をお届けしたいと思っております。



ピガップ代表 児嶋 真人

茨城県出身 29歳。キックボクサー含め、バス会社、パソコン販売、ホテル配膳、工場勤務、食品営業、通信配線、アパレルアイテムデザインなどの他業種を経験して現在は、「豚革」を広める活動をしています。【販売実績】オリジナルブランドにてローファー 180足販売。オリジナルブランドにて牛革小物三種類発売。2021年2月ギフトショー 豚革ブースでの出展



東屋内の「袋物博物館」には、昭和20～30年頃、海外へのお土産として人気だったアメ豚の革小物が展示されています。他にも江戸時代から大正時代にかけての、煙草入れ、笛入れ、紙入れ、腰下げなどの貴重なコレクション、手動ミシンなどの製作道具など約100点を展示・公開しています。



袋物博物館

<https://azumaya.bz/museum/>
開館時間：平日13時～16時
〒130-0026
東京都墨田区両国1-1-7 東屋内

皮から革へ

たくさんの工程を経て
革は生まれる

START

とじ場

原皮(1匹)は主にとじ場から原皮革者に出荷される。

原皮

原皮は土塩を漬けた後、さまざまな工場に送られる。

裏打ち (ブレイニング)

皮に付いた余分な脂肪をとり除く。

染色・加脂

1匹の皮を異なる色の染料で染め、色を揃える。

仕上げ

裁断機などでカットし、型を合わせる。

ピロ-仕上げ

10cm x 10cmの単位でカットし、下地加工を行う。

計量

単位「フィート」で革の面積を計量。

分割

皮を一定の厚さに分割する。

脱毛・石灰漬

原皮を石灰液に1週間ほど浸し、表面を滑らかにし、繊維をほぐす。

水しぼり

革を絞って、余分な水を取り除く。

再ぬめし

石灰を洗い流し、革の質感を戻す。

乾燥

革を乾燥させて、柔軟性を高める。

エンボス

革の表面に模様を押し付ける。

各種加工

革の表面に金属板を貼り付け、模様を型押しする。

PIGSKINの特色

透気性
耐久性
柔軟性
防水性

脱脂

脱毛

石灰漬

分割

水しぼり

再ぬめし

乾燥

エンボス

各種加工

仕上げ

出荷

FINISH!





革の製造風景

革を鞣す時、染色する時、
大きな木製のドラムに入れて回転し攪拌させる。
水の硬度や水温、気温、薬剤の量、革の性質など
職人の経験でコントロールする。

(上) 水分を含んだ皮革は
かなりの重さになり重労働になる。

(下) 革の引き具合を調整しながら、
一定の水分に絞っていく。



鞣した直後の革をスライスすることで
大まかに厚さを調整する。



革漉（かわすき）コンマ数ミリの
誤差も許されない。
常に厚みを測りながら
革をスライスし厚みを合わせる。



ネット張り乾燥のために、
革を引っ張りながら固定。
引きすぎず、たるませず微妙な力具合と
角度を調整する。

熱と圧力で箔を貼り付ける。
ずれないように、剥がれないように
均一さが求められる。



(上) 塗装する色は、
乾燥した後の色を予想して調合する。

(下) ナイフカットの試行錯誤が、
小さなサンプルとなって
積み重なっていく

革はゆっくり風を通しながら
乾燥させることで
仕上がり後の素材が安定する。
昔はあちこちの工場で
乾燥させる風景が見られた。

